

2020年3月期 決算概要 & 中期経営計画ローリング

2020年6月
フクダ電子株式会社



2020年3月期 決算概要 & 中期経営計画ローリングについてご説明します。

- 2020年3月期 決算概要
- 中期経営計画



1

本資料の内容となります。

- 2020年3月期 決算概要
- 中期経営計画

2020年3月期 決算概要

2020年3月期 決算概要となります。

■ 業績計画達成

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益はいずれも計画達成

■ 基盤となる国内事業の強化

電子部門、ライフテック部門、コーリンいずれも順調に推移

■ 消費税増税による影響

駆け込み需要が生じるも、下期に反動減
診療報酬および公定償還価格改定（2019年10月）

■ 海外事業の取組み

採算性向上に向けた取組み

■ 新型コロナウイルスによる影響

現場の状況を最優先した医療機器等供給体制の維持

2020年3月期 決算サマリーです。

業績においては売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも計画を達成しています。

基盤となる国内事業の強化に取り組み、電子部門、ライフテック部門、コーリンいずれも順調に推移しました。

また海外についても採算性向上に向けて取り組みました。

一方で、消費税増税に伴う駆け込み商談の増加に伴い、上期は国内事業中心に前年を大きく上回る実績となりましたが、下期はその反動が生じたところに、世界的に新型コロナウイルス感染症が拡大し、現在に至っております。

グループ一丸となって、医療従事者を支えるべく現場を最優先し、医療機器等の供給体制の確保に全力を尽くしております。

2020年3月期 決算概要



単位：億円	2019.03 (18年度)	2020.03 (19年度)	増減額	増減率
売上高	1,297	1,333	+36	+2.8%
営業利益	126	132	+6	+5.0%
経常利益	132	136	+3	+2.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	95	96	+0	+0.3%

4

当社の2020年3月期の連結業績概要です。

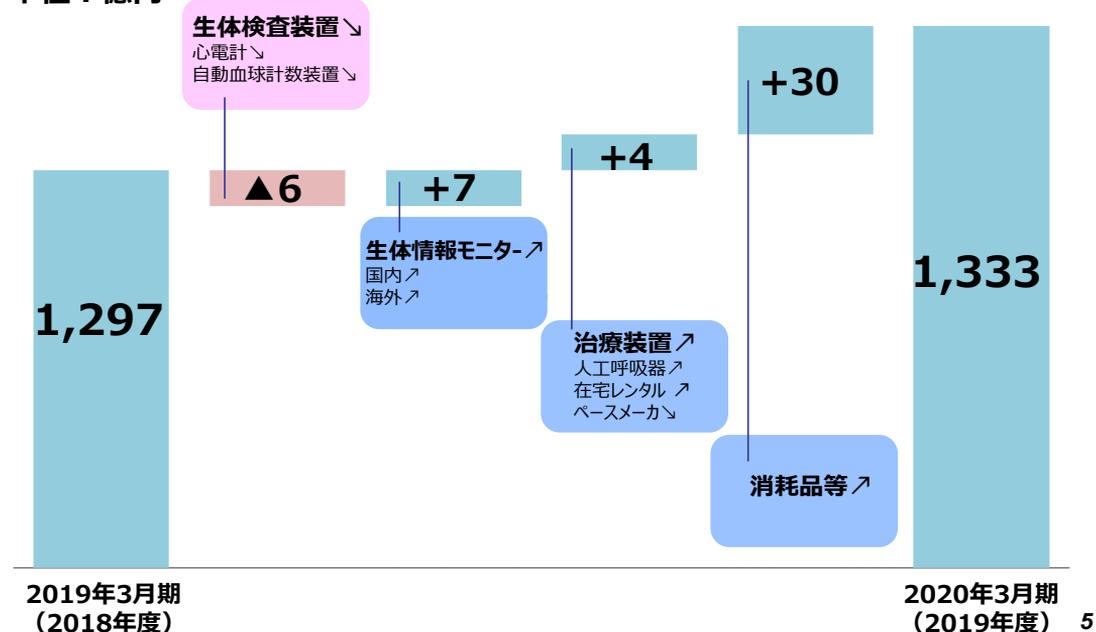
当連結会計年度におけるわが国経済は緩やかに拡大したものの、輸出・生産面に海外経済の減速の影響がみられ、さらには新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、先行きが不透明となっております。

医療機器業界においては、2019年10月に実施された消費税率10%への引上げに伴う診療報酬改定は全体としてはプラス改定であるものの、新型コロナウイルス感染症の拡大により医療機関には多大なる重圧がかかっている状況にあります。

このような環境の中、当連結会計年度の連結売上高は1,333億93百万円（前年同期比2.8%増）となりました。利益につきましては、連結営業利益は132億83百万円（前年同期比5.0%増）、連結経常利益は136億47百万円（前年同期比2.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は96億9百万円（前年同期比0.3%増）となりました。

売上高の増減内訳

単位：億円



売上高の増減内訳になります。

生体検査装置部門の連結売上高は前年同期比▲6億円の減少となりました。

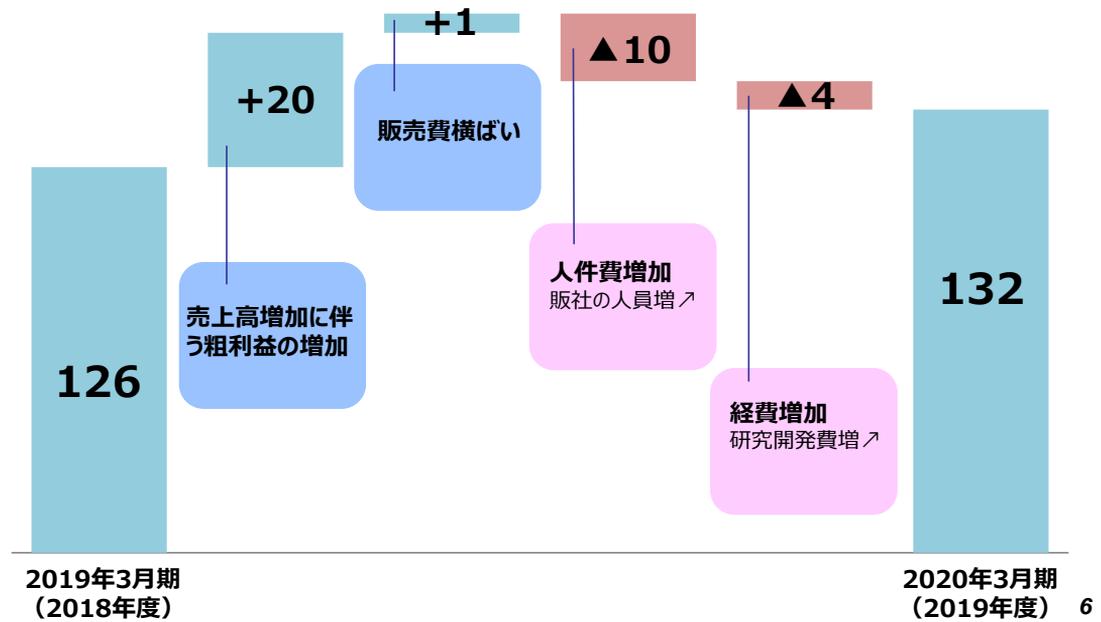
生体情報モニター部門の連結売上高は前年同期比+7億円の増加となりました。

治療装置部門の連結売上高は前年同期比+4億円の増加となりました。

消耗品等部門の連結売上高は前年同期比+30億円の増加となりました。

営業利益の増減内訳

単位：億円



営業利益の増減内訳になります。

2019年度の営業利益は132億円となりました。

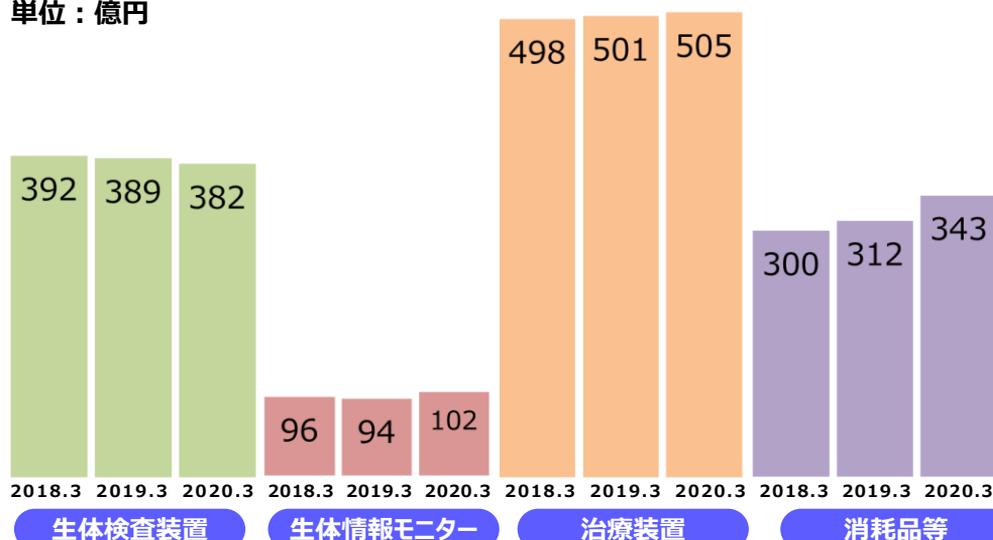
売上高増加に伴う粗利益の増加が+20億円となっております。

販管費におきましては、販売費は横ばいとなっておりますが、人件費+10億円増加しております。

また主に研究開発費の増加により、経費が+4億円増加しております。

セグメント別 売上高推移

単位：億円



生体情報モニターや在宅医療向けレンタル事業等の治療装置、消耗品等の売上が伸張り増収

7

セグメント別の売上高推移になります。

生体検査装置部門は、心電計関連、自動血球計数装置の売上は減少し、連結売上高は382億34百万円（前年同期比1.7%減）となりました。

生体情報モニター部門の連結売上高は102億44百万円（前年同期比8.1%増）となりました。

治療装置部門は、ペースメーカー関連製品の売上は減少しましたが、人工呼吸装置、在宅医療向けレンタル事業の売上は伸張り、連結売上高は505億88百万円（前年同期比1.0%増）となりました。

消耗品等部門は、記録紙、 Disposable電極や上記各部門の器械装置に使用する消耗品や修理、保守を含みます。

消耗品等部門の連結売上高は343億25百万円（前年同期比9.7%増）となりました。

為替変動の業績への影響



通貨		2019.03 (18年度)	2020.03 (19年度)	2021.03 (20年度)
US \$	実勢レート	110円	109円	-
	社内レート	115円	110円	108円
ユーロ€	実勢レート	128円	121円	-
	社内レート	135円	125円	120円

為替感応度（1円円高の影響）

US \$ → 1,300万円のプラス

ユーロ€ → 1,500万円のプラス

8

為替変動の業績への影響については、US \$ が1円変動した場合は約1,300万円、ユーロ€が1円変動した場合は約1,500万円の影響がございました。

なお、円高に推移した場合、当社は輸入超過のため業績への影響はプラスになっています。

社内レートにつきましては、2021年3月期はUS \$ を108円、ユーロ€ を120円で設定しております。

中期経営計画

中期経営計画のローリングになります。

■ 2040年を展望した医療提供体制の改革

- ・地域医療構想の実現に向けた取り組み
- ・医療従事者の働き方改革
- ・医師偏在対策の推進

▶ 三位一体改革による推進

■ 診療報酬改定（2020年4月）

- ・医療機能の分化・強化、連携
- ・地域包括ケアシステムの推進

▶ 医療の質向上と効率化
ICT活用による連携

■ 新型コロナウイルスの動向

- ・医療機器メーカーとしての使命と事業継続性の確保

▶ 最前線で戦う医療従事者の方々を支えると共に、従業員と家族の感染しない・させないための予防を徹底

10

当社を取り巻く事業環境としては、少子高齢化に伴う社会保障制度改革やマクロ経済の動向などが挙げられます。

2040年を展望した医療提供体制の改革は、地域医療構想の実現に向けた取り組み、医療従事者の働き方改革、医療偏在対策の推進という三位一体で進められております。

2020年度の診療報酬改定は、全体として+0.55%(うち医科+0.53%)となりましたが、医療の質向上と効率化、ICT活用による連携が強化される中、引き続き、医療機能の分化・強化、連携や地域包括ケアシステムの推進が進められております。

新型コロナウイルスへの対応として、医療機器メーカーの使命と事業継続性の確保という理念の下、最前線で戦う医療従事者の方々を支えると共に、従業員と家族の感染しない・させないための予防を徹底しております。

社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、
医学の進歩に寄与する

世界のトップ心電計メーカーをめざす

フクダグループは運命共同体として
共通の目標を追求する

社員の自己啓発と人格形成に資し、
豊かな生活を建設する

11

当社の経営理念となります。

- ・社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、医学の進歩に寄与する
- ・世界のトップ心電計メーカーをめざす
- ・フクダグループは運命共同体として共通の目標を追求する
- ・社員の自己啓発と人格形成に資し、豊かな生活を建設する

という経営理念の下、医用電子機器メーカーとして、安全・安心・快適を基軸とした「お客様に信頼される企業」となり、予防・検査～治療～経過観察・リハビリ～在宅・介護まで、地域医療を支える製品・サービスをご提供することを経営の基本方針として掲げております。

お客様第一主義を基軸に、新たな価値を生み出すと共に、電子、ライフテック、コーリンの協業強化により、さらなる成長を目指す

事業展開

- ・お客様軸での事業拡大
- ・グループの特徴を活かした事業展開

製品力

- ・開発力の強化
- ・新たな価値の創出

組織力

- ・働きがい改革
- ・グループ全体の生産性向上

12

当社は、経営環境の変化を踏まえ、経営理念、経営基本方針の下、「お客様第一主義を基軸に、新たな価値を生み出すと共に、電子、ライフテック、コーリンの協業強化により、さらなる成長を目指す」の中期経営ビジョンを、「事業展開」「製品力」「組織力」の3つのテーマで実現して参ります。

地域医療を支える一貫した医療環境を提供

予防・検査	治療	経過観察・リハビリ	在宅・介護
心電計 NEW 血圧脈波検査装置 NEW ホルター フクダコーリン 受賞 超音波画像診断装置 NEW 植込み型心電図記録計 NEW 自動血圧計(健太郎) NEW 心臓カテーテル用検査装置	人工呼吸器 NEW 麻酔システム 心臓用カテーテル型電極 ペースメーカ AED PTCAカテーテル	生体情報モニタ ホルター テレメータ送信機 スポットチェックモニタ 心臓運動負荷モニタリングシステム	酸素濃縮装置 睡眠評価装置 パルスオキシメータ フクダコーリン 受賞 血糖自己測定器 NEW 在宅用人工呼吸器 持続的自動気道陽圧ユニット 二相式気道陽圧ユニット 安診ネットカイゴ
フクダクラウドサービス			

当社の事業展開を、左から予防・検査、治療、経過観察・リハビリ、在宅・介護の領域の順で概観しております。

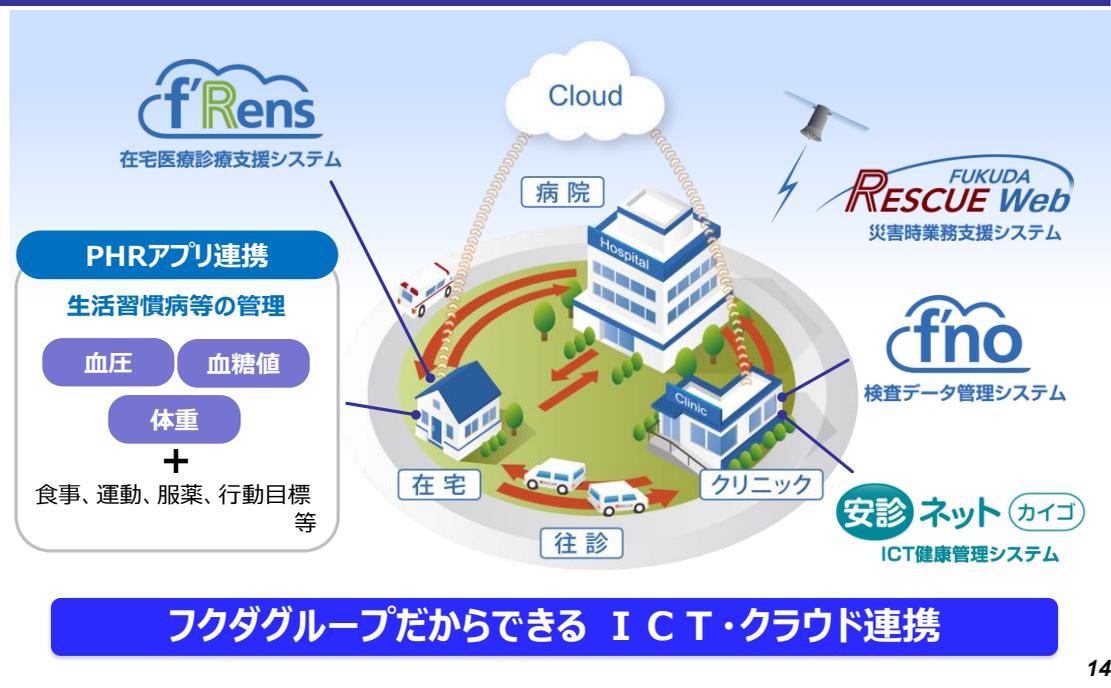
予防・検査分野では、心電計・ホルタや血圧脈波検査装置、心臓カテーテル用検査装置、超音波画像診断装置、脳波計、新規に投入した植込み型心電図記録計、フクダコーリンの自動血圧計などの品揃えがございます。

治療分野においては、心臓用カテーテル型電極、PTCAカテーテル、ペースメーカ、AED、人工呼吸器、麻酔システムなどを取り扱っております。

経過観察・リハビリ分野では、生体情報モニタやテレメータ送信機、ホルタ、心臓運動負荷モニタリングシステム、フクダコーリンのスポットチェックモニタなどを取り扱っております。

在宅・介護分野においては、酸素濃縮装置やパルスオキシメータ、在宅用人工呼吸器や睡眠時無呼吸症候群の検査・治療で使用する睡眠評価装置、持続的自動気道陽圧ユニットなどの製品に加え、介護分野においては安診ネットを取り扱っております。

さらに、この一貫した製品・サービスをICTで統合することができる、フクダクラウドサービスのご提供を進めて参ります。

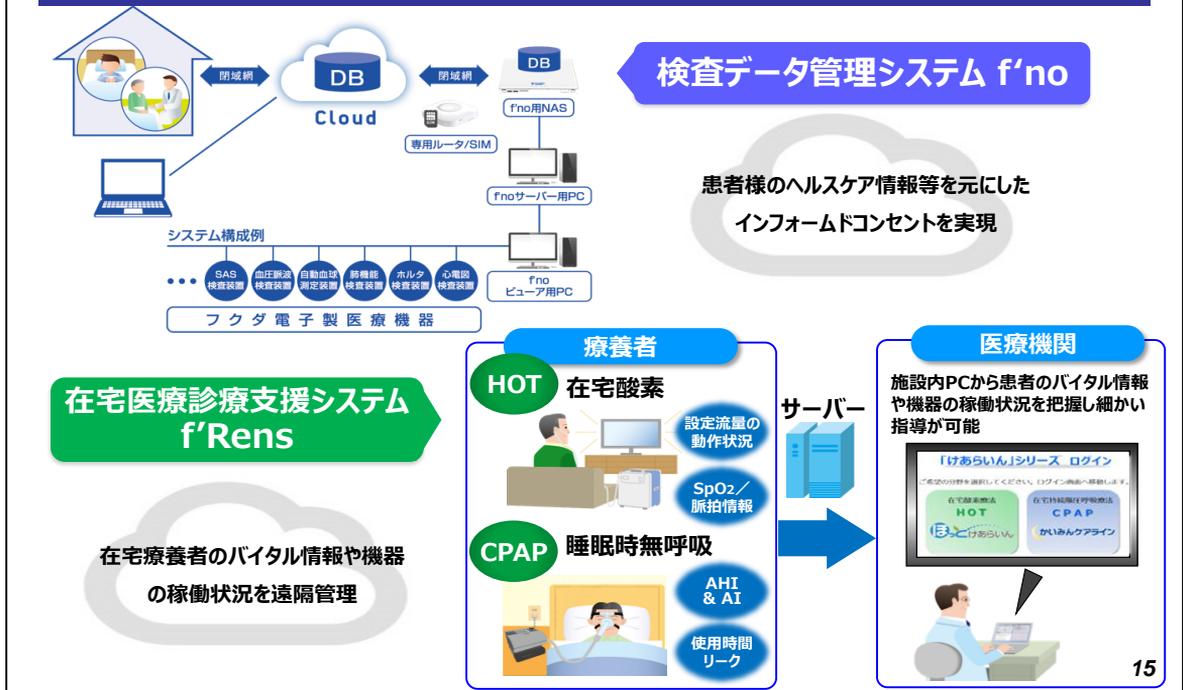


フクダグループのシステムソリューションをご紹介します。

フクダクラウドサービスとは、クラウド上のデータセンターを利用し、外部のクラウドとも連動しながら、診療所から病院、在宅などの各種データを集約できる仕組みです。

クリニック向けのf'no（エフノ）、在宅医療向けのf' Rens（フレンズ）、介護分野の安診ネットとの連携に加え、PHRプラットフォームの連携を強化し、それらを医療機関や患者さんに向け普及活動を行うことで、医療機関・患者さん双方にとって、より利便性の高いデジタルソリューションの構築・提供を推進していく予定です。

クラウドを活用したデータマネジメントシステム



クラウドを利用したデータマネジメントシステムf'no（エフノ）は、クリニック向けサービスとして販売をしております。

大きな特徴の一つが、インターネットを経由しない閉域網を利用して通信するため、高いセキュリティを確保できている点です。

また、検査結果や所見・レポート、ヘルスケア情報などを一元管理でき、クラウド側での自動バックアップや、ソフトの自動アップデートなどを実現しています。

在宅向けのクラウドサービスとしては、IoTを利用したHOT・CPAPの遠隔モニタリングサービスf' Rens（フレンズ）をご提供しています。

従来からご提供していた在宅酸素分野における、SpO2、脈拍、機器の使用状況のデータの他、睡眠時無呼吸分野においても、AHI&AI、機器情報を医療機関にて遠隔モニタリングできる仕組みとなっています。

ワークスタイルイノベーション（働きがい改革）プロジェクト

医療機器メーカーとしての社会貢献、事業継続性の確保

会社の成長

- 環境整備
- 多様性を認める
- 挑戦を促す
- 固定概念に捉われない



社員の幸せ

働きがいを感じながら、プライベートも充実

- 生産性の向上
- 自立した働き方
- 自発的成長
- 利益貢献

人事労務改革



IT化推進



職場環境改善



16

目まぐるしく変化する事業環境の中、単に「働き方」を変えるのではなく、社員の「働きがい」を向上させることにより、会社の成長と社員の幸せを両立させる、ワークスタイルイノベーションプロジェクトを推進しています。

新社屋の建設も進んでおり、ITなども活用した職場環境改善や人事制度の見直しなども検討しております。

■ 基本方針

- ・人命を第一優先する
- ・社会的責任を果たす
- ・誠意を持って対応する

■ 工場の稼働・サービス提供等について

- ・医療機器安定供給のための工場稼働および在庫確保
- ・お客様のご要望に基づき事業活動継続、感染対策を徹底し、不要な営業活動は自粛
- ・海外は各国の法令、方針等に準じた措置を実施

■ 従業員および家族の安全確保に向けた感染対策

- ・検温義務付け
- ・在宅勤務の推進、時差出勤の積極利用
- ・社内外での感染予防（国内外出張禁止、会議研修原則禁止、社内消毒、来客との感染予防、宴会・集会の禁止等）

新型コロナウイルス感染症への対策となります。

■ 製商品供給体制について

人工呼吸器、生体情報モニタ、パルスオキシメータ等の医療機器の他、空気清浄除菌脱臭装置、関連消耗品等の需要に対応すべく、供給体制の強化を図っております

治療・経過観察



感染予防



新型コロナウイルス感染症への対策となります。

より地域密着を目指したサービス網の充実

フクダ電子

全国
79カ所

ライフテック

全国
122カ所

フクダコーリン

全国
23カ所

全国合計
224カ所



2020年4月末現在

業界最多規模の国内拠点数

19

フクダグループの強みの一つが、フクダ電子およびフクダライフテックの拠点201カ所にフクダコーリンを加えた全国224カ所の、業界最多規模の国内拠点数です。

- 2021年3月期の連結業績予想、及び中期業績目標は、現時点では新型コロナウイルスの感染拡大による影響を合理的に算定することが困難であるため、未定といたします。今後、業績予想算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。
- 2020年3月期の1株当たり年間配当金は5円増配の180円とさせていただきます。

2021年3月期の連結業績予想、及び中期業績目標は、現時点では新型コロナウイルスの感染拡大による影響を合理的に算定することが困難であるため、未定といたします。

今後、業績予想算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

会社概要

2020年3月末現在

社名	フクダ電子株式会社 FUKUDA DENSHI CO., LTD.
本社	東京都文京区本郷三丁目39番4号
代表者	代表取締役会長 福田 孝太郎 代表取締役社長 白井 大治郎
設立	1948年7月6日（昭和23年）
資本金	46億2,160万円（授權株式数 7,800万株）
事業内容	医用電子機器の開発・製造・販売および輸出入
従業員数	連結：3,871名（内 嘱託・パート 663名） 単体：788名（内 嘱託・パート 137名）
株式	東京証券取引所 JASDAQ上場（証券コード 6960）

コーポレートガバナンスへの取り組み

基本方針 当社は、日々変化する経営環境を的確に把握し対応するとともに、継続的な企業価値の向上、健全で透明性の高い効率的な経営を実現する上で、コーポレート・ガバナンス（企業統治）は経営上最も重要な課題のひとつと位置付けております。

経営の意思決定や監督と業務執行の分離化を図ることで、迅速かつ効率的な経営を実現し、戦略性と機動性に富んだ経営活動を行うことを基本方針としております。

「社会的使命に徹し、ME機器の開発を通じて、医学の進歩に寄与する。」を理念に掲げ、「CSR（企業の社会的責任）」への取り組み、各ステークホルダーとの信頼関係を構築し、企業価値の向上に努めていきたいと考えております。

【お断り】

この資料に記載されております業績予想数値は、当社および当社グループの事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を及ぼす要因について、現時点で入手可能な情報に基づいての見通しであり将来に亘る部分については、皆様の投資のご参考に資するために、ご提供をさせて頂くものです。

同数値については市況、競争状況、新製品および商品の投入状況など多くの不確実な要因の影響を受け予想と異なる結果になることが有るため、保証をお約束するものではありません。

この資料に関するお問合せは、下記にお願い致します

経営企画部：鈴木・松本

TEL：03-5684-1558 FAX：03-5684-1577

email：info@fukuda.co.jp

フクダ電子株式会社

〒113-8483 東京都文京区本郷三丁目39番4号

2020年6月 証券コード：6960 Copyright Fukuda Denshi Co., Ltd. All right reserved